

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 27 年度

事業所番号	2799400060		
法人名	有限会社フレンド		
事業所名	グループホームフレンド大阪中央		
所在地	大阪府大阪市中央区高津3丁目14番26号		
自己評価作成日	平成 27年 7月 4日	評価結果市町村受理日	平成 27年 8月 28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 27年 7月 22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>近隣に商店街、地域のイベント集会場もあり、積極的に地域と連携が取れています。月に1回の自治体開催のふれあい喫茶にも積極的に参加するなどの取り組みを行い、ご利用者様の自立アップを図っております。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>近くに高速道路や幹線道路が走る市街地の道路に面して建てられ、2路線の最寄駅からそれぞれ徒歩10分のところにあります。建物の1階に、小規模多機能型居宅介護事業所を併設しており、2階から4階に、3ユニットのグループホームとして開設して2年目を迎えます。管理者は、利用者の落ち着いた暮らしと職員の働きやすさを日々考えながら、より良いホーム作りに努力をしています。職員は家族の認知症の経験から、認知症グループホームの勤務を希望して入職した方もおり、利用者との馴染みの関係と笑顔を引き出す関わりをしながら、生活を支えています。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての理念を掲げ、管理者、職員はその理念を共有して実践につなげている	「地域の中でその人らしく暮らす。地域に密着した尊厳ある生活。その人がその人らしく暮らす」を法人の経営理念として掲げています。運営方針の中で、「住み慣れた地域でその人らしく笑顔で過ごせる生活空間をサポートします」と具体化し、地域密着型サービスの意義を踏まえた支援に取り組んでいます。経営理念は、玄関内やフロア入口に掲示し、職員間で共有しています。今後は、グループホーム独自の理念を職員間で話し合い、作成の上、年間目標を定めて、日々の介護実践に生かしていく予定です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治体開催のふれあい喫茶への継続した参加や、運営推進会議に自治会長様、包括支援センター職員にお越しいただくなど地域との連携を意識し、交流を図っている。	運営推進会議のメンバーである自治会役員の協力を得て、地域の行事に参加しています。月1回開催される「ふれあい喫茶」に参加し、利用者は地域住民と顔馴染みになっています。散歩や買い物に出かける際は、近所の方と挨拶を交わします。今年は地域の防災訓練の誘いを受けました。不定期ですが近隣住民にグループホーム内の見学会を開催したり、認知症について相談に応じたりもしています。職員は地域との新しい交流の場にホームで夏祭りを催し、地域住民にグループホームを開放して、多くの近隣住民と交流を深めたいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	地域のイベントに参加し、介護を実践することで、認知症介護の発信を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表の方や、包括支援センターの職員にお越しいただき、アドバイスと受け、グループホームの運営を行っている。	運営推進会議は、2ヵ月に1回開催しています。会議のメンバーは利用者、家族の代表、地域の代表、地域包括支援センター職員、法人代表、職員で構成されています。会議では、利用状況の報告、行事の取り組み、年間行事の計画、職員の年間研修計画等を説明しています。季節に応じた感染症予防等、勉強会も行っています。地域包括支援センター職員は、運営推進会議に毎回参加し、情報提供や助言を行っています。自治会長からは、地域行事の情報を得ており、最近では近隣の国立劇場での催しについて情報があり、利用者も参加して楽しみました。また、地域での避難訓練の情報を得て、今年には参加する予定をしています。参加者からは、意見や提案を活発に出され、職員はそれらをホーム運営に活かす取り組みを行っています。運営推進会議の規程・規約は、作成していますが、「守秘義務」の項目については今後追加する予定です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1回程度は包括支援センターに連絡や、訪問行っており、地域との連携は取れている。	市担当者とは、都度連絡を取っています。地域包括支援センターへは、月1回訪問し、連絡や相談をしています。事故報告書は都度、迅速に市へ提出しています。	現在は市や地域包括支援センターへの訪問、書類提出等は法人本部が行っていますが、今後は管理者自らが出向いて連絡を密に取ってはいかがでしょうか。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	いかなる状況であっても身体的拘束をする必要のない介護を提供できるよう、都度スタッフとのミーティングを行い、実践に努めている。	身体拘束のないケアに取り組んでいます。グループホームの建物は、大通りに面したビルの一隅にあります。利用者は建物内のフロア、エレベーターはすべていつでも自由に移動できます。しかし、玄関入口のみホーム前の歩道、車道共に交通量が多いため、安全を考慮し、施錠しています。職員は、利用者が外出したい気配を感じた時には、何時でも一緒に出掛けます。利用者の更なる自由な暮らしを支援するために、職員は「身体拘束」について研修を行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者自らが定期的にスタッフへの研修を行い、虐待が見過ごされないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者自らが定期的にスタッフへの研修を行い、虐待が見過ごされないよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者や家族にわかりやすく説明し、疑問点についても、契約時、契約以後においても聞けるよう柔軟に対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談苦情窓口の設置し、意見を聞く機会を設け、スムーズに対応できるようにしている。また意見箱の設置もしている。	管理者は、利用者や家族等との信頼関係を構築し、その意見や要望を運営に反映することの大切さを認識しています。家族等が来訪の際は、利用者の状況を報告しながら要望等を聞くように努めています。	利用者、家族等との信頼関係を更に深め、意見や要望を出しやすいよう、事業所からより積極的な情報提供や働きかけを工夫されてはいかがでしょうか。例えば、家族への請求書送付時に、運営推進会議の議事録や事業所だより、利用者の事業所での様子や健康状態等を同封してはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p><b>○運営に関する職員意見の反映</b>            代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的にスタッフミーティングを実施し、意見を聞く機会を設けているが、他にも、本部職員による定期訪問も実施している。</p>	<p>管理者は、日々職員とのコミュニケーションに努め、現場からの意見や情報をしっかり取り入れ、相談や調整をしながら運営しています。定期的な会議を設け、会社方針等の連絡、業務内容の統一、確認、変更等を話し合っていますが、都合で開催できない時は、管理者から書面を職員に回覧し、内容の周知徹底を図っています。職員の提案事項は、管理者から本部職員に伝え、実現に向けて努めています。</p>	
12		<p><b>○就業環境の整備</b>            代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>本部職員定期訪問により、意見や悩みなど聞く機会を設けている。実力、やる気を評価し、職員への意欲向上がもてるよう働きかけている。</p>		
13		<p><b>○職員を育てる取り組み</b>            代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>フロアミーティングの実施や、研修を通じて職員の技術向上に取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福祉連絡協議会の参加など、同業者との意見交換の場を確保している。継続的に参加し、勉強の機会を確保していく。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を必ず行い、本人様と話す時間を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いを持つ場を大切にしている。本人様の状態変化の連絡などをこまめに行い、信頼関係を築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の意思や希望を尊重した介護を実践できるよう計画し、またその内容の共有をはかり支援を行わせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様は人生の先輩であると尊敬の気持ちを持って接するように指導している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の不安や希望を共有し、共に支えあっていく関係の構築を実践している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の面会に制限せず、友人に関しても可能な限り受け入れを行っている。	管理者は利用者の馴染みの人や場所との関係を継続する支援の重要性を理解していますが、近隣地域からの利用者が少なく、支援の事例も少ない状況です。最近入居した利用者には、友人が来訪した事例があります。管理者は、今後、特に面会の少ない家族等に年賀状を送る支援をする等、馴染みの関係継続に工夫をしていく考えです。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人の空間を作らないようスタッフが配慮し、ご入居者様同士が関わる環境づくりを実践している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了後も相談いただけるようご家族様へお声を掛けさせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前面談、入居後の面談などセンター方式シート等活用し、ご本人様の思いを把握できるよう実践している。	利用者の情報は、入居前に行った面接、面談の記録を2種類のアセスメントシートへ詳細に記録し、利用者一人ひとりの理解を深められるようにしています。管理者、職員は日々の利用者との何気ない会話や関わりの中から、思いを聞き取り、意向に添える支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らし方、生活環境等を家族や知人に伺い、以前の生活歴を大切にできるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の状態を総合的に把握し、柔軟に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画の作成については、ケアマネ、スタッフ、家族の意見を反映させて作成している。また日々の変化に柔軟に対応して必要な都度、見直しを行っている。</p>	<p>介護計画書の見直しは、基本的に6カ月毎としており、必要に応じて、都度見直しを行っています。計画書の見直しに関わらず、毎月モニタリングと職員の参加によるカンファレンスを実施し、利用者の変化やケアを確認しています。主治医の意見も文書で得ています。家族にもカンファレンスの予定を伝え、可能な限り参加をしてもらえるようにしていますが、参加が難しい場合には面会時に聞き取る等して、計画書に反映しています。見直した計画書は、利用者や家族の同意を得ています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>各個人々の食事摂取量や水分摂取量などの詳細な記録をとり、スタッフが情報の共有を行い、介護計画や介護の実践に努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>日々の小さな変化や気づき等に柔軟に対応できるよう心がけて支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のお寺や定期開催の喫茶店などを十分に活用し、ご本人様が持っている心身の力を発揮できるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始前からのかかりつけ医での受診をしたり、グループホームの訪問医とも連携した対応をしている。	かかりつけ医は、本人・家族の意向により選択してもらいます。ホームの協力医療機関による往診を選択の際には、訪問診療の希望書と同意書に同意を得ています。訪問診療により一部の利用者が、週に一度受診をしています。歯科の往診も受けています。ホームに入居前からかかりつけの医療機関に、外食を兼ねて家族と受診する利用者もいます。その際には、ホームで記録している健康管理表と薬について、特変事項を管理者が文書にし、持参してもらおう等の工夫をしています。薬局にも月に一度利用者の様子として、血圧や排泄、日常生活についての文書を情報提供しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設している小規模多機能型居宅介護勤務の看護師と連携し適切な受診が受けれるよう支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の情報交換などを密に図り、早期退院への取り組み、グループホームの復帰を協議して支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の事業所の対応等入居前に十分説明し、重度化した際にも都度対応している。	開設以降、現在までに看取りの事例はない状況です。管理者は、今後看取りについても可能な限り対応したいと考えています。看取りが必要となった際には、看取りに関する指針、同意書を策定して、家族の意向、主治医、法人の意見を聞いて、実施できるようにする考えです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個別の対応マニュアルで対応を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p><b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>急変時の連絡網作成や定期的な避難訓練を年間計画に取り組んでいる。</p>	<p>スプリンクラー、消火器、火災報知器等設備面は整備されています。運営規定では非常災害に備え、年2回(うち1回は夜間想定)で地域の協力機関等と連携を図り、避難訓練を行うと定めていますが、確認できる実施記録は1回です。火災に関するマニュアルは作成されていますが、地震、水害等のマニュアルは未整備です。非常災害時に備えて、水や食料等の備蓄が整備できていない状況です。</p>	<p>各種の非常災害時の対応に関するマニュアルを整備し、職員に向けた教育や訓練を実施することが求められます。特に避難訓練は少なくとも年2回、うち1回は消防署の立ち合いで定期的に行うことが求められます。非常災害時に備え、必要量の水や食料等の備蓄について、検討してはいかがでしょうか。</p>
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	<p><b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>スタッフは入居者に敬意を込めた言葉遣いで接しており、外来者への対応及び記録などの保管取り扱いなど、個人情報保護を心がけている。</p>	<p>管理者は職員に向けて、利用者一人ひとりを尊重し、プライバシーの確保には特に留意するよう、教育指導しています。特に排泄、入浴等の日々の支援では、誇りやプライバシーを損ねない言葉使いや支援方法を徹底するように努めています。介護記録等の取り扱いや個人情報の保護についても、研修や日々の支援の中で職員に徹底を図っています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	支援内容についてわかりやすく説明し、同意を得ている。認知症の自己決定ができるように情報収集している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様一人ひとりの体調、精神面を把握し、その時々のご本人様の意向を尊重して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面所に鏡を設け身だしなみを心がけてもらえるように努めてる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる範囲での準備や片づけを行っていただいている。	朝食は、パン・サラダ・ヨーグルト等を日替わりで用意しています。昼食と夕食は、業者から調理されたものが運ばれています。管理者は、誕生日会には利用者の意見を聞きながら、他の店舗から料理を取り寄せて、食事を楽しめる工夫をしています。手作りおやつ材料を利用者と買い物に行き、一緒に作って楽しむこともあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様一人ひとりの食事摂取量や水分量などなど1日を通して把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の汚れや臭いが生じないようご利用者様の力を引き出しながら、口腔ケアを支援している。また、定期的に連携の訪問歯科にお越しいただき、口腔ケアも実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、一人ひとりの排泄リズムを把握し、声掛けや誘導により排泄の失敗やオムツの使用回数を減らすよう支援している。	排泄については、管理者が考慮し、利用者毎に1ヵ月分の状況を1枚の様式にまとめて記録できるよう作成しています。また、健康管理表にも記録し、日々の介護記録にも記入して、排泄パターンを確認しています。全利用者は、トイレ誘導により排泄介助しています。入居の際には、リハビリパンツを使用していた利用者の肌の弱さを考慮して、失禁用の布パンツに変えた事例等、個別に選択をして支援しています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を確認する為に排泄チェック表を記録している。 また、必要に応じて家族、医療機関に報告を行い、水分補給指示など頂いた内容で支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様の希望にあわせ、気持ちの良い入浴ができるように支援に支援している。	基本的に週に2回入浴しています。入浴に関しては、事業所として可能とする基準を定めており、持病などで必要な時には、かかりつけ医による診断書も得ています。家族の希望により、入浴日以外に、シャワー浴による対応もしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転が起こらない用意日中にレクリエーションを用意し、昼夜逆転の防止に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは、ご利用者様の使用する薬の目的や副作用、用法や用量を周知しており、ご利用者様一人ひとりが医師の指示通り服薬できるように支援し、症状の変化を記録確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内のご利用者様一人ひとりが楽しみや出番を見出せるように場面作り等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの公園や神社などに出かけ、季節の変化を感じて頂いたり、ちかくの商店街にも出かけている。	利用者と手作りおやつの材料の買い物や、月に一度の地域のふれあい喫茶などに出かけていますが、外出は少ない状況です。洗濯物を干しているバルコニーに出て、外気浴をすることもあります。	外出が難しい時には、気軽に外気浴を多く取り入れられるよう、バルコニーにプランターで花や野菜などを植えて水やりをしたり、テーブルや椅子を置いてお茶を飲みながら歓談したりする等、楽しめるような工夫をされてはいかがでしょうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な買い物の同行や代行で実際にお金を使う機会を確保している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	手紙の代筆やポストへの投函を行っている。また友人への電話の取次ぎなども行っている。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過ごせるように採光や換気などに配慮し、家庭的な雰囲気作りを心がけている。また、季節に応じた装飾などもおこなっている。	日中利用者が過ごす、居間兼食堂は明るく、利用者が職員と笑顔で会話を交わしています。壁面には、1階に併設する小規模多機能型住宅介護事業所との合同行事等で撮影した写真や、事業所ニュース等を掲示しています。	利用者が、いつでも好きな時にゆっくり過ごすことができるよう、ソファー等を数カ所に配置したり、バルコニーにガーデンテーブルと椅子を設置したりして、くつろげるスペースを設けられてはいかがでしょうか。また、共有空間に家庭的でやさらぎを感じられる装飾を工夫されてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う仲間通し話せるようにテーブルを設置したり、自室にお気に入りの家具をお持込していただいたりと、居心地が良く過ごせるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室に使い慣れた家具や生活用品などお持ち頂いて安心してすごせるよう配慮している。	クローゼット、ベッド等が標準配備されており、馴染みのドレッサーやタンス、テレビなどを持ち込んで個別の空間に設え、落ち着いて過ごせるようにしています。	利用者個人の荷物は、クローゼットに収納してスペースを作り、ミニソファや椅子などで居室内でもくつろげる場所を設けるなど、工夫されてはいかがでしょうか。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、滑り止めや要所への手すりの設置、福祉用具の利用により、安全かつ安心した生活が送れるよう工夫してある。各居室の入り口に表札を付け、自分の居室がわかり易いように工夫している。		